

学力の基礎をきたえ どの子も伸ばす研究会ニュース

NO. 362

学力研の広場

2025. 5. 10

学 力 研 発 行

常任委員長 岸 本 ひ と み

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

郵便振替 00920-9-319769

第2の学級開き

4月から1ヶ月。みなさんはどのように過ごされたでしょうか。

4月は教師も子どもも心機一転パワーに満ち溢れています。学級開きもある程度うまくいき、子どもたちも素直に過ごすことが多いと思います。GWから始まる5月は4月の積み上げも一度リセットされます。つまり、ここからが本当の学級開きなのです。そろそろ、子どもたちも本気を出す時期です。学級の安心・安全を守るためにも第2の学級開きに取り組む必要があります。

教室では、学級で決めたルールを少しずつ乱したり、反抗的な態度をとってみたいと試してみます。指導が入らない状態にある場合もあるでしょう。保護者から連絡や電話がくることも予想されます。

そこで、ゴールデンウィーク明け、先生方はどのように学級開きを行い、授業づくり・学級づくりに取り組んでいるのでしょうか、ともに考えていきましょう。

加藤 英介

CONTENTS

◇ 『 第2の学級開き—セカンドギアをどう入れるか— 』 ◇

5月の授業・学級づくり
セカンドギア
0からの仕切り直し

根無信行・・・2
加藤英介・・・4
岸本ひとみ・・・6

◇連載

「どの子も伸ばす」を本気で考える連載79「意欲格差」に負けない！公立小学校へ
考える力をつけるための授業の組み立て方②①
社会科（歴史）授業力アップ講座②⑥
「新学期スタート講座」まとめ
『教員不足』—誰が子どもを支えるのか（岩波新書）の紹介
局長・常任委員長だより
学力研カレンダー

岡本美穂・・・8
荒井賢一・・・10
深澤英雄・・・12
川崎和代・・・14
金井敬之・・・16
・・・17
・・・18

5月の授業・学級づくり

大阪 根無 信行

新年度が始まって、3週間が過ぎ、GWを迎えました。今年度は3年生を担当しています。子どもたちは、新しい学年、クラスに、初めは緊張したり、様子見をしたりしていましたが、今は徐々に学級の波に乗って過ごし始めています。3年生といえば、理科・社会が始まりテストのある教科が増えたことで、支援を必要とする児童がどのように教室で学習を進めていくのが課題になってきます。また、新出漢字が200字に増え、わり算のあまりでつまずく子が多かったな、とか、物語では「ちいちゃんのかげおくり」の学習をしたな、などの印象が残っています。小学生の中でも、特に子どもらしく、そしてやる気のある学年である3年生を、授業を通して学ぶことが楽しく、クラスで安心して活動することができるような一年にしていきたいと思っています。

一、授業スタイルの再確認

初めての授業参観が終わり、席替えをし、GWを終える頃になると、子どもたちも、

新しい担任が作ったルールや授業スタイルに慣れてきます。新鮮な気持ちで頑張ってきて、良い意味で授業の流れに乗ることができているのですが、年度の変わり目や学年が上がったことを理由に、昨年と少し変更を加えたルールなどに対しては、「前の学年ではこうだった」と、”楽”な方に逃れようとする意見を言う子が出てきます。

例えば、前年度は連絡帳を教師からのタブレット配信や板書の撮影で持ち帰っていた子どもたちを、今年は連絡帳を書く形に戻しました。また、授業中にタブレットで調べ学習をしたり、自分の課題が済んだら学習アプリをして待ったりしていたルールを、教師が使用する指示を出すまで机には置かないという形にしました。すると、連絡帳を書いているときに「写真で撮っていいですか?」とか、8分間の漢字ミニテストの待ち時間に「タブレットを出していいですか?」とかを尋ね始める子が出てきました。

そんなときには、スタイルをこう変えた理

由を伝え直すことにしています。連絡帳は、自分で文字に書いて、確認しながら持ち帰った方が、記憶に残って忘れ物が減ること、タブレットの画面を見る時間はなるべく少ない方が、目にも脳にもいいこと、などです。話を聞くときは手を止めてこっちを見る。友だちの発表は最後まで聞く、意見を言いたい人は手を挙げて当てられてから。などのルールも、少しずつあやふやになってくる子も出てきます。そんなルールは教室にそつと掲示しておき、再確認することで始めた状態に気持ちを引き戻してあげます。

二、友だちとの揉め事

この時期には、「こんなこと言われた」「こんなことされた」「○○してくれない」。休憩から戻って来たとき、こう訴えてくる子も増えてたりします。新しい友だち関係が作られ、深まるまでの過程でもあるのでしょうが……。特に、2年生までは周りはあまり見えず、自分事ばかりだったのが、3年生ごろから、「周り」を意識することが(意識できることが)増え、それが成長ではあるのですが、こんなことを言われる、こうしてくれない、という、相手

に対して思うように行かないことへの不満を出してきます。それがよく起きるのが、「休憩時間おわり」です。授業の準備もせず、チャイムが鳴っても席につけず、関わりのない子まで先生とその子とのやりとりを見に集まってきます。

そんなことが増える前に、揉め事に対する先生の対応を見せるようにしています。「言った」「言われた」は、教師も見えていないのでわかりません。「言っていない」事を証明することは難しいので、『そう聞こえたかもしれないけれど、決してそう思っていないでし』と、言ったとされる子に宣言させます。「そっちが先に言った」「言われたから言った」の時は、悪口なら「言う」こと自体が悪いので、どちらにも同じトーンで注意します。話が長引きそうであれば、「次の休み時間にきちんと聞いてあげます。みんなの授業があるから、その時間は大事にしてあげましょう。」と伝え、休み時間のチャイムに呼び止めます。その頃には、「遊びたいので」「ごめんなさい」と言い合えることがほとんどです。「せっかく遊ぶなら、仲良く楽しくね。」と伝えて送ります。休み時間のトラブルを、授業時間に持ち込まない、トラブル

になったら遊びを切り上げて戻っておいで、ぐらいいのスタンスで対応していくというのを、子どもたちに見せるのはいかがでしょうか。

三、第二の学級びらき

学級びらきの日、学級通信で、「こういう子になってほしい」とともに、「こういうことはしないように、(したらおこります)」、を示すようにしています。これは、子どもたちがめあてを持って、どのように学級の一員として成長していけばいいか、何をしなければみんなが心地よくすごせるのか、分かりやすいことが安心につながると思っているからです。してはいけないことをしなければ、みんな笑顔でいられるのだから、それを目指すことがみんなのための学級づくりになるでしょう。

学しゅうで、りばな3年生に なるために

小学校に来て、5・6時間はじぎょうの時間です。それは、じぎょうでみんなに成長してもらうためです。2年生とちがって、生活のべん強のかわりは、「寂寥」や「憂鬱」かはじまり、「えいご」も本でべん強したりします。しゅう中して、しっかりじぎょうをうけることが大切です。頭をきたんてかしくなると、スナックも上手になります。そのために、

①毎日 ②ていねいに③さいごまで

フツツ、力をつけていきましょう。

ほんたいに、してはいけないことも書いておきますね。

- ×人のせうしんをさすつづけること。(たたく、け、わる口)
 - ×人のべん強のじはをすること。(おしこ、へりな)
 - ×やれはでできるのになまじること。(かんは、はいる人をはかにするに)
- これらのことは、先生も大きいです。もし、見かけたら、ちゅういします。それでもやめられなければ、おこられてもしかたがないと思ってください。でもね...

べん強やほかのことかうまくできないのは、みんながまだ成長の途中だからです。だから、けしてべいばいしない、いいよ、先生が、おうえんします。

3.1 クラスみんなで力を合わせてがんばりましょう。

2025. 4. 8



それを、子どもだけでなく、自分も再確認するために、もう一度読み合うのもいいかもしれません。子どもたちにも4月初めの、新鮮な思いがよみがえればいいですね。

ただ、小さなルールは、変更することもあります。その場合は、学級会などで話し合って決めます。この時期は、成長を確認する時期であってほしいです。良くないから立て直す、ではなく、良くなっているから続けよう、やってきた甲斐があつたね、さらに成長しよう、と、子どもたちの意見を反映して、自分たちで良く変えていける、という自治の気持ちを育てていく機会になればと考えています。

四、家庭訪問を味方に

家庭訪問を、コロナ禍以来、行わない学校も増えたと聞きます。ただこの時期以外に家庭訪問をすることとなると、大抵、登校しぶりのお迎えや、生活指導上の話をするためです。学校行事の家庭訪問は、おうちの人をいい顔で訪ねられる最初のチャンスかもしれません。学級で、お子さんをこう輝かせたい、ともに成長を見守りましょう。ご協力をお願いします。と伝えることが大きな味方となるでしょう。

学級開きのセカンドギア

加藤 英介

はじめに

今年度は、総合的な学習の専科として、三年生から六年生に授業をするとともに、ICT主任、授業研究主任と担任から外れて学校全体を支える立場にあります。4月は学校全体を回りながら、教師修行としてベテランの先生の授業開きを拝見することに、若手育成として指導力向上を目指して声をかける日々でした。また、週に1時間ずつ各クラスで授業を行いました。つまり、初回は、授業開きと授業開きの両輪で行いました。今回は、4月のスタートでどのように学級開きをしながらか授業を行ったのか、5月からどのように取り組むのかを紹介します。

4月の学級・授業開き（6年生）

1時間目は次のような話をしました。

「おはようございます。先生の名前を知っている人はいますか。たくさんいます

ね。どうして知っているのかな。なるほど。お兄さんお姉さんから聞いている、通学団、クラブ、先生はなんか有名、朝礼でいつも話をしているという話がありました。目で聞いてくれた人、発表してくれた人、うなずいてくれた人ありがとう。実は、春休み、先生は地区の先生方に向けてたくさんお話をする機会がありました。そのときに、こんなことを聞かれました。『〇〇小のよいところはどんなところですか』そう聞かれて先生は戸惑ってしまいました。急に聞かれたということ、当たり前のように過ごしているから考えてもいなかったからです。さあ、みなさんはならどう答えますか。六年間過ごしてきたからこそいえる〇〇小のよさを考えてください。手を挙げてくれた人ありがとう。あなたは勇気がありますね。新しいクラス、不安な中でも失敗を恐れず果敢にチャレンジしているところがすばらしい。そう思う人は拍手をしましょう。

今、明るい学校という意見が出ました。ノートの真ん中に〇〇小学校と書いて、ウェビングマップのように広げていきます。思ったことをどんどん書きなさい。6年生だから6個かけたら先生のところへもつてきなさい。時間は3分程度です。それでは、スタート。

もってきた子から準備一つだけ丸を付けて返します。それを黒板に書きなさい。まだ、一度も見せていない人は書けたところまでもつてきなさい。全員が書いた黒板を見て、気付いた人はいますか。みんなはすごい力をもっているなあ先生は感じました。言われたことをやるだけでなく、自分なりに考えたり、付け足したり、大切だと思うことをどんどん書いています。〇〇小学校はすてきな学校ですね。気になったことを一つ聞いてもいいかな。『仲良く』っていうのは、誰と仲がいいのかな。自分？クラス？学年？それとも：今、他学年とも仲がいいという意見が出たけれど、本当？休み時間に登下校という話は納得できますが、それだけで学校として仲がよいといっているの

かな。みんなが学校で過ごす一日の中で多いのは休み時間？授業だよ。それでつながれたりにぎやかにできたりしたらもっと楽しく仲良くなるのになあ。みんなはどう思う？じゃあ、何したい。例えば一年生なら？」

と学年の意向を踏まえた異学年交流への第一歩を踏み出しました。もともと、一年生にはタブレットの設定・準備を六年生に手伝ってほしいとの依頼がありました。が、そのまま伝えてもやる気は上がりません。今回のようにまずは「やりたい」という気持ちにさせてからスタートしています。そして、その中でも、挑戦している子を全体でほめる、よいこと、よくないことをはっきりさせること、そして、全員が教師の指示に対して動くことを徹底しました。

セカンドギア

ゴールデンウィーク明け、子どもたちの気持ちもシステムもリセットされています。そこで、もう一度、次のような話をします。

「ゴールデンウィークはゆっくりできましたか。いよいよ、一年生との交流会が迫ってきました。そもそも、どうして一年生との交流会をすることになったのかな。どんな学校にしたかったのかな。明るく仲の良いにぎやかな学校にしたいとするならば、今日の一時間は何をしたらいいのかな。」

と一ヶ月の取組を振り返るとともに、学習のゴールをもう一度伝えます。どんな学校にしたいのか、一年生にどうなつてほしいのか、そして、今日の時間をどのように使えばよいのか、どの順番で進めたらよいのかということを確認します。学習が始まれば、つまづいている子、分からない子、困っている子などに「大丈夫、先生ならこうするよ、友達に聞いてみる？」と個別に声をかけていきます。そして、何もしないよりも分からないことを言えることやそのままにせずに聞きに言った子がいるという事実を伝え、全体に伝えていきます。中には、やる気はあってもプライドがあり参加が難しい子もいるでしょう。そんなときは、その子

が一ヶ月どのような取組をして努力していたか、その子のきらりとい光るよさは何かをさりげなく伝えていき、参加してもいいかなという気持ちを引き出していきます。

おわりに

5月からが本当の勝負です。ギアを急に上げるとオーバーヒートします。学級開きでしたことをもう一度振り返るつもりで、ていねいに伝えて確認していくことが大切です。できているつもりで指導することが一番危険です。「忘れてしまつて当然、できていなくても当たり前」という気持ちで臨みましょう。久保先生も最初の百日が大切とおっしゃっていました。あせらず、ゆつくり小さな何気ない毎日をコツコツと積み上げていきましょう。授業だけでなく、朝の会や帰りの会、給食や掃除は、案外、見落とされがちですが大切な時間です。1年後の子どもの様子を見据えて、今日の取組を意識し、楽しみましょう。

1年生のGW明け　～一から仕切りなおし～ 加印　いろえんぴつ　岸本　ひとみ

GWに入る日、

「明日から5連休（4／26の代休が2日）ですね。5回もお休みが続きます。けがをしたり、風邪をひいたりせずに、元気に7日（水）には、学校に来て下さいね。」

という言葉で送り出しました。

その時点で、入学してから17日目でした。たった17日しか登校してないのに、70時間も授業時数をこなした子どもたちに感心してしまいました。

◇5月7日は0（ゼロ）からスタート

4月中に、登校したら、宿題をボックスに入れて、連絡ノートを前に提出して、運動場で元気に遊ぶ、というルーティーンがほぼ定着した時期で、GWに突入しました。きつと、入学式時点に戻ってしまったのだろうというのが、私の予想です。

高学年だと、行事がいろいろあるので、

こんなにのんびり構えていられませんでした。1年生は、もう一度、定着しなかったルーティーンを確認することから始まります。いわば、入学式時点まで、時間を巻き戻した状態です。

でも、一度できるようになっていたことなので、思い出すのは早いです。3日もすれば、だいたいの子どもの状態は、4月末に戻ります。

◇ペア活動を導入するチャンス

ゆっくり再確認したつもりでも、なかなか思い出せない子どももいます。

「あらあら、4月にはできてたのに、どうしたの？」

と声をかけると、

「うん。もうできるやつって、ママに言われたけど、うまくいかないんだよ。」
という返事が返ってきました。

保護者の方が、GW明けで仕事が忙しく、

のんびりしたペースの1年生には合わせていられなかったのでしょう。

「だいじょうぶだよ。困った時は、お隣の○○さんにたずねてごらん、ちゃんと教えてくれるよ。」

というと、につこり笑顔になりました。

そうなんです。この時期から、ペア活動を意図的に組み込んでいます。そのために、GW前に、席がえもしました。席がえがまだでしたら、この機会に、気分転換も兼ねて、席がえをおすすめします。

ペアの組み合わせに困ったら、早生まれさんと遅生まれさんを組み合わせると、いい感じになります。特に、早生まれの女の子と遅生まれの男の子をペアにすると、世話好きなお姉さんタイプが、せっせと弟タイプ面倒を見てくれます。

◇おすすめペア学習

まだ、この時期は文章を書くことが難しいので、ペア活動は、もっぱら音読の交換読みと、ブロック並べや数カードを使った「いくつといくつ」ゲームになります。

・交換読み

お互いの国語の本を交換して、読み手と聞き手を分担して、句読点の息つきや、助詞の読み間違いがないかを確認します。短文で構成された題材が多いので、中には暗唱してしまっていて、それが間違っているという子どももいます。また、ひとり音読では緊張して間違いやすい子どももいます。そういう子どもたちも、お隣さんに聞いてもらって、ひとことコメントをもらう、という学習活動は大好きです。

・「いくつといくつ」ゲーム

算数の教科書にも、いろいろなゲームが出ています。2人分の数カードを使って、「大きい方が勝ち」ゲームや、その逆で「小さい方が勝ち」ゲームもできます。数カードを出して、相手がブロックを並べるといふゲームもできます。中でも、おもしろいのが、次のゲームです。

○なんでも「」ゲーム

例えば、「7」ゲームだと、次のようになります。一人が「3」のカードを出せば、ペアの相手は「4」を出します。制限時間

を10秒程度にしておくと、みんなできると思います。

なかなか答えが出ない子どもには、ブロックを出して、それを見て、数えれば答えが出ることを教えるのにぴったりです。

◇図工、生活科のぐるぐるタイム

図工や生活科で、自分のイメージがなくなつかめない子どももこの時期は多いので、よく「ぐるぐるタイム」を設定しています。教室の中で、友だちのカードや作品を見て、ヒントを見つけたら、真似をしてもいいという時間です。

国語の「□」のつく言葉あつめ学習や、算数のノート指導の時にも、このぐるぐるタイムは使えます。上手に、数図ブロックの絵を描いていた、たくさん言葉を集めていたりする子どもの真似をすることで、クラス全体の学習のレベルが上がっていきます。

◇低学年は模倣で育つ

5月になったからといって、急に学習が

ちやんとできるようになるわけではありません。むしろ、座学の苦手な子どもにとっては、緊張を強いられる時間になってしまいうことがあります。

飽きてきたなと感じたら、先述のペア学習を入れたり、ぐるぐるタイムを設けたりして、離席したり、体を動かしたりしながら、少しずつ学習に取り組めるようになれば、それでいいのです。

45分間を、4つか5つのパーツの組み合わせと考えると、その中に、友だちとおしやべりができる学習活動や、教室中を歩き回って模倣ができる時間を、あえて作ったりすることが、GW明けの心がしんどい子どもの気持ちを軽くしてくれるのではと考えます。

◇おまけ

高学年でも、このペア学習やぐるぐるタイムを、この時期取り入れると、ほっとするようです。大人も気分がブルーなのですから、子どもはなおのことですよ。

「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

■「もっと学力研で勉強したいな」

今回からは、私が、若手の頃から学んできたことや得たことなどについて紹介をしていきます。

◆アルバイトと教育実習での先生との出会いから教職を目指す

私は、高校時代には教師になろうと思っていたんですけど。皇宮警察(皇宮護衛官)になろうと考えていて、高校時代に採用試験を受けて、卒業と同時に就職しようと思っていたのです。ただ周囲の人から「せっかく地元の進学校に行っているんだから、大学に進学したほうがいい」と強く勧められて、公務員になるのに有利そうかなと思い大学に進学することにしたのです。

進学先は大学の教育学部でしたから周囲は皆、1年目から教員になろうと思っている人たちばかりです。当初は、その中で教

職を考えていない私だけが少し浮いているような状況でした。

その考えが少し変わり始めるきっかけになったのは、アルバイトです。教育学部ですから、子供に関わるバイトの求人が多くあり、その中から放課後指導の仕事を選んで近くの小学校に毎週1回通い始めるようになりました。そこで、「あのクラスの、あの子についていて」と指示されたのですが、その子はまったくしゃべらない子供だったのです。毎週毎週学校に行つて、私なりにその子に関わろうとしましたが、何もしゃべってはくれませんでした。そうして3か月ほど経ったある日、突然、その子が私の名前を呼んでくれるようになったのです。その日の帰り道に、「ああ、自分にはそんなに力はないけれど、子供が変わること、成長することってこんな喜びを感じられるなんって、先生つてとてもすてきな仕事なんやなあ」と思ったのです。

ちなみに現在、私は国語を専門に実践研究をしています。大学での専門は社会科学でした。ゼミは教育哲学で、愛について考えている人や、生き物を育てて食べるような教育について研究している人がいたので。私は「学校における自由と枠組み」について考えていました。そのゼミ時代に灰谷健次郎さんについて学び、灰谷さんが描くようなすてきな教育の場をつくりたいなと思っていましたし、それについてまとめて書くこともしていたのです。

やがて教育実習で小学校に行つたときに指導してくださった先生が、とてもすてきな先生でした。算数が専門の先生だったのですが、子供をすごく大事にしておられて、子供の姿を通して多様な学びについて延々と語ることができた先生だったのです。その先生に出会うことで、「先生つて、とてもすてきな仕事やな。絶対に先生になろう」と思うようになりました。そんな小うちに子供との出会い、先生との出会いを通して、大学進学時には考えていなかった教職を選んでいくわけです。ただ、ある意味、大学の教育学部を選んだ時点で、知らず知ら

ずにそういう流れに乗っていったのかも
しれません。

◆「学力研」の大会に参加

その後、採用試験を受けるわけですが、採用の通知が来たときにはすごくやる気にあふれていました。ですから、教師になるための準備をしておきたいと思ったのですが、現在のようにネット上に多様な情報があるわけでもないし、先輩や専門家にZOOMなどで話を聞けるような機会があるわけでもありません。本も読んだほうがよいとは思っけれど、何を読んだらよいのかも分かりません。そこで、大学で人に聞いてみました。でも、誰も教えてくれませんでした。そのように何を準備したらよいかも分からずに時を過ごして、不安な中、教師になったのです。

配属になった初任校は、1学年が4クラスで、私の学年は50代の女性の先生が2人と男性の先生が1人でした。お母さん2人、お父さん1人と学年を組んでいるような状況です。ですから、1日1日、「今日は何を

しますか？」と聞いて、教えてもらって、それを一生懸命やるような状況でした。もちろん大枠については先輩に聞くのですが、細かな部分については自分が受けてきた教育を思い出し、「係活動ってこんなふうに行ってたな」などと考えて、必死に取り組んでいたような状況だったと思います。

そうやって1学期を過ごした後の夏休み、先輩の先生に「学力研について、全国的な勉強会の夏の大会があるんやけど、一緒に行ってみない？」と誘われたのです。学ぶ機会を求めていた私は、そこに参加することにしました。

その会に参加し、久保齋先生のノート指導に関する実践の話を聞いて、「ああ、やっぱり教師って目の前の子供たちをキラキラ輝かせられるすてきな仕事なんやな」と大きく価値観が変わりました。それまでは、日々の目の前の仕事をこなすことに追われていたわけですが、「もつと希望のある仕事なんや」と、自分の思考が大きく変化したわけです。それで、「もつとこの会で勉強したいな」「もつと教えてもらいたいな」「もつと努力せなあかん」と思い、その日の帰

りの電車の中では頭がすごく興奮していて、無心に関連書籍を読んでいたことを覚えています。

その後、9月からは学力研の「先生のための学校」で毎月学び「追実践」に取り組みました。それは講座のようなものとは異なり、1か月に1回、「こういう実践をやってみませんか？」と提案されたものを実際にやっていくものです。それを自分のクラスでやってみると、「うまくいったな」というときもあれば、「全然ダメだな」というときもあります。それについて、なぜそうだったのか省察して次の月に報告し、また次の実践に取り組むわけです。そういう取組を、9月から翌年の3月まで年6回行つのですが、私は初任の年度から現在まで19年間続けてきています。そのように座学ではなく、学校の実践の形で勉強する機会が毎月あったことは、私にとって本当に大きな力になりました。このような在籍校とは異なる、学びの仲間を見付けられたことも大きなことです。

(続く)

規範意識を育てながら知の交流を

今年度(二〇二五)は、六年と三年の理科専科となった。

三年理科を一年間教えるのは、もしかすると初めてかもしれない。

「えんぴつを置きましょう。」

教科書の表紙をめくって頁を教科書を立てて両手で持たせて、

「教科書は立てて両手で持ちます。背筋を伸ばして。大人の骨は約二〇〇本、子どもの骨は約三〇〇本。子どもの小さな骨がひつついて大きな骨になります。背中を曲げていると曲がったまま、骨がひつついていきます。だから、今は背筋を伸ばすのです。大人になったらもう無駄ですから。」

と、姿勢維持の趣旨説明をして、それから連れ読みで読ませた。

ノートを配布し、名前を書かせ班で確認、日付・何時間目か・天気、温度予想後、

温度を書かせ、「荒井先生はどんな先生か？」の「①好きな果物」「②好きな料理」「③嫌いな食べ物」「④好きな教科」「⑤苦手な教科」「⑥得意なこと」を書かせていった。

「好きな果物を書きましょう。なければ、なしと書きます。」

しばらくしてから「待つてほしい人？」と確認。たいてい5, 6人の手が挙がる。さらにしばらくしてから、「鉛筆をおきましょう。」と指示。全員が置くまで、その指示をくり返した。

全員が鉛筆を置いた段階で、一列を指名して、一人一人名前を私が呼んでから、子どもたちに発表させていった。

「同じ物が好きな人は手を挙げましょう。」一列の発表が終わった段階で、私の好きな果物を発表した。(ちなみに「バナナ」)

これをくり返した。要するに、計6回、「鉛筆を置きましょう」が出来たことにな

る。

これは、鉛筆(持っている物)を置いて、先生や他の子の発表を聴くんだ、という指導をしていったことになる。

※「えんぴつを置きましょう」によって、子どもたちに規範意識を身につけさせる。この指導は、山中伸之先生に教えていただいた。

「知っている生き物を書きましょう。」

教科書音読後、最初の単元「①春の生き物」のタイトルをノートに書かせた。

「春の生き物について勉強する前に、まずは「生き物」について勉強します。」

そして、まずは、「知っている生き物」を三分間でいくつ書けるかを挑戦させた。

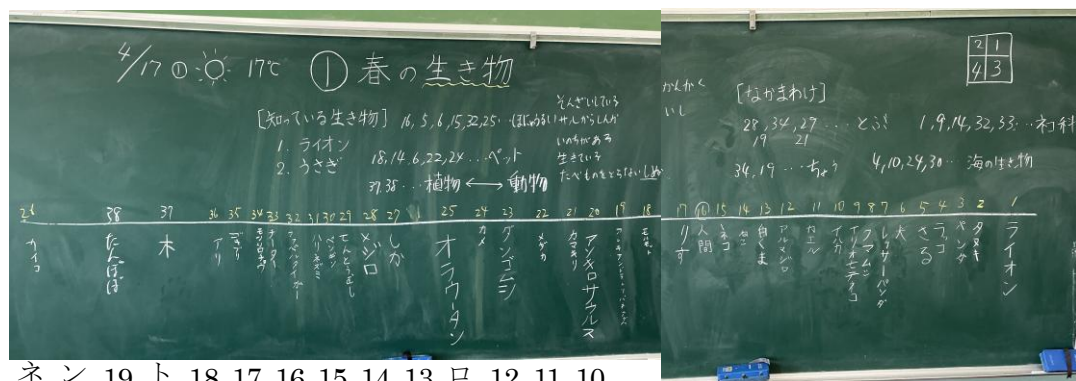
三分後、

「えんぴつを置きましょう。」

と指示。何個書けたかを聞いていった後、班で一人ずつ交代して、自分のノートに書いた知っている生き物の一つ選んで板書させていく。

次頁にそのときの板書載せる。

ナンバーリングもし、全員が板書しているかの確認もする。(全員参加の確認)



1 ライオン
2 タヌキ
3 パンダ
4 ラッコ
5 さる
6 犬
7 レッサー
8 クマムシ
9 イリオモテ
テネコ
10 イルカ
11 カエル
12 アルマジロ
13 白くま
14 ねこ
15 ネコ
16 人間
17 リス
18 モルモット
19 アレキサン
ドランドリ
バ
ネアゲハ

20 アンキロサウルス
21 カマキリ
22 メダカ
23 ダンゴムシ
24 カメ
25 オラウータン
26 カイコ
27 しか
28 メジロ
29 てんとうむし
30 ペンギン
31 ハリネズミ
32 ファベルタイガー
33 チーター
34 モンシロチヨウ
35 ゴキブリ
36 アリ
37 木
38 たんぽぽ

「知らない生き物がありますか。あつたら質問しましょう。」

8・9・19・20・26・28・32などが、質問される。そして、それを書いた本人に答えさせた。

うまく答えられず涙ぐむ子もいたので、「自分が言えないときは、説明できる人いませんか、と聞いてごらん。」とフォローした。

この後、

「生きていないと思うものはありますか。」と聞いた。

生きていないものとして、取り上げられたのは、例えば「たんぽぽ」。

生きているか、生きていないかで挙手させた後、

「生きているという理由が言える人？」と聞いて、発表させていった。

- ・ そだっていくから。
- ・ かれたり、元気なときがあるから。
- ・ 「人間」も選ばれたりした。
- ・ こきゆうするから。
- ・ えいようをとるから。
- ・ 心があるから。・ しぬから。
- ・ サルから進化したから。
- ・ かんかくがあるから。
- ・ 意思があるから。

その後、例を出してから、仲間分けをさせたのである。(省略)

三年の理科も面白い。

一、歴史教材を学ぶ時

小学校社会科学習の見方・考え方として、学習指導要領の6年にはこう書かれています。「社会的事象の見方・考え方（歴史）社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々の国民の生活と関連づけたりして」「歴史的分野 社会的事象を時期、推移などに着目して捉え類似や差異などを明確にしたり事象同士の因果関係などで関連付けたりして」とあります。

日本文教出版の教科書の「日本のあゆみ」の一時間目には、歴史学習の見方・考え方として一、空間（時代のようななど）二、時間（人々のようななど）三、関係（人物どうしやできごとどうしの関わりなど）となっています。

小学校で習う時代の名前は、

- ・縄文時代
- ・弥生時代
- ・古墳時代
- ・飛鳥時代
- ・奈良時代
- ・平安時代
- ・鎌倉時代
- ・室町時代
- ・安土桃山時代
- ・江戸時代
- ・明治時代
- ・大正時代
- ・昭和時代
- ・平成時代
- ・令和時代

この時代名を見て、考えるだけでもとても意味が深いです。大きく四つに分けることができます。

一、土器由来。二、墓。三、朝廷や将軍などがいた場所。四、天皇一代に一元号（一世一元）の制度から。それぞれの名前がついた由来は調べると色々あります。

私は、子どものころに、歴史の授業を受けていた時に思っていたことは、大仏がつけられた奈良時代を習っていたら、日本のすべてが奈良で済んでいて、平安時代になれば京都で時代が進んでいてというように、単純に思っていました。歴史は習っている場所でのことで、自分が住んでいる場所とは関係ないと感じていました。私は神戸で暮らしているので、奈良時代の神戸、平安時代の神戸のようなど想像もせずに、歴史を学習していました。



このような地図も勉強していたはずす

が、つながっていませんでした。

二、地域教材をどう授業に組み込むか

社会科での歴史的な内容の接続はどうなっているのでしょうか。

三年生で、「地域に残る昔の道具、生活の変化、文化財や年中行事」。

四年生で「地域の発展に尽くした先人のほたらき」と学び、

六年生で、日本の歴史を古代から現代までの各時代の特徴、歴史上の人物と学習します。

日本近現代史の研究者の鹿野政直氏は、教科書を分析していくつかの問題点を挙げています。その一つは、教科書は「誰それが、これこれのことをした。そして情勢や制度はこのように変わった」というスタイルで書かれており、氏はこれを「したこと史観」と名付けます。「したこと史観」の問題点として、歴史Ⅱ国家の足跡、あるいは、歴史Ⅱ英雄・偉人の足跡という図式になってしまふということです。こうした教科書の書きぶりによって、「世の中を動かした『公』」のことが歴史だという意識

「それ以外のものは歴史じゃないというような考え方」が「知らず知らずのうちに頭のなかに入ってくる」のだと言います。

小さい時の私は、まさに「したこと史観」にとっぴりつかっていました。

二、歴史における地域教材とは何か

三年生の時に、地域の偉人や歴史、遺跡などを学んでいるはずですが、六年生の学習と結びつける意識が子どもはもちろんのこと、教師にも弱いのではないのでしょうか。六年を何度か受け持ちましたが、最初の頃の私はそうでした。教科書を教える事でいいっぱいでした。六年生になれば、社会見学で地域の遺跡などへ行きますが、社会見学と授業をリンクさせて教えていませんでした。教科書の内容と関連付ける知識と技能と考え方がありませんでした。

縄文時代には、北は北海道から南は沖縄まで、縄文文化が広がっていました。もちろん地域の特色や時代によって様々ですが、日本各地に遺跡があります。その遺跡や出土した土器のことを縄文時代を紹介しては

どうでしょうか。

実測の日本地図を初めて作成した伊能忠敬は、沖縄県以外の土地に向いて、測量しています。何年の何月にきて、どこに宿泊し、天文観察をしていたということも分かっています。案外、皆さんの住んでいる近くを通ったかもしれません。

教科書から幅を広げて、「子どもたちにとって、はなはだ興味うすく、わかりにくい」問題をどのようにして「自分ごと」として捉えさせ、どのようにしてより深い歴史認識を主体的に獲得させるのかは大きな問題です。

地域での出来事をもとに、歴史学習のねらいに即し教材化された資料を活用し、授業を展開することは、子どもたちに歴史に興味もたせることから教材化の推進が期待されます。

小学校という歴史学習の入口で身近な地域で見つかった物やそこに暮らしていた人々、その地域を訪れた歴史上の人物を知ること、で、「他人ごと」から「自分ごと」としての歴史学習につながるのではないかと考えています。

新学期スタート講座

まとめ

川崎 和代

「できた！楽しい！学力づくりの第一歩」

根拠 伸行

リンゴの木の下の子ども達。手を伸ばしてリンゴを採ろうとしているが届かない。リンゴを手にする事ができるのは、ジャンプしたら偶然リンゴに手が届いた子だけ。このリンゴが学力だったらどうだろう。根無先生は、どの子もリンゴが採れるように足場を築いてあげること、つまり基礎学力をつけることが学校の役目とおっしゃいます。

まず、声を出すことの楽しさを実感する取り組みとして、国語教科書の扉の詩の音読を模擬授業風に紹介して下さいました。連れ読みの音読から始まり、段階的にテーマに迫っていく発問をします。最後に音読をして最初の音読と比べ読みの向上を実感させます。

他にも、福沢諭吉の「天地の文」の暗唱、数字を目で追いながら歌うわり算のアルゴリズム、円周率の九九、大阪府の市町村を

覚える。パブリカの替え歌、語彙を増やす活動として、辞書引きを楽しむ「コトバト」の取り組みも紹介されました。

「できた！」を実感させる取り組みも大切です。新単元に入る前に振り返りテストをして苦手なところをさがす、九九に自信がない子には、九九カードを持たせるなどの配慮、「わり算忍者の忍法修行」を使って楽しく計算の手法を身につける工夫をされていきました。

学力づくりは、楽しい↓取り組み↓できるようになる↓楽しくなる↓さらに取り組み↓できる…の好循環を年度初めに作っていくことを目指されているそうです。

学校に來ているからこそ、みんなでリアルな体験を共有できる一斉授業の大切さ、学力の獲得を、子どもの自己責任や運任せにしない学校が果たすべき役割を再認識させられました。

「考える力をつけるための授業の組み立て方」

荒井 賢一

荒井さんは、考える力をお城の構造に見立て、考える力は天守閣。天守閣を支える土台である石垣（基礎）がしっかりしていないと考えることはできないとお話しされました。別の喩えでは、基礎は冷蔵庫の身（長期記憶）、冷蔵庫の食材を制約のあるスペースであるまな板（ワーキングメモリ）に取り出し、調理すること（言葉を使って整理整頓）が考えるということである。

この組み立て方で模擬授業をして紹介してくださいました。その一つ目が理科の「春の生き物をさがしてみよう」の単元です。第一段階では、生き物の名称を挙げさせます。このときのポイントは、ノートに書かせる、全員発表を目指すと言うことです。4月の段階で授業への参加意識をつくりまします。第二段階で、挙げられた生き物を分類します。（抽象化）動物と植物、飛べるか飛ばないか等分類の基準も多様です。そして第三段階。意見が半々に分かれそうな発問「大きい動物と小さい動物、どちらが得で

すか。」(考える) 大か小か自分の答えと、それを選んだ理由もノートに書きます。意見を交流することで、生き物の大きさが違うのはなぜかについてまで思考を巡らすことになります。

同じような組み立て方で、社会「わたしのまち みんなのまち」の模擬授業もされました。この3年生の授業がさらに抽象化され、6年生の「私たちの生活と政治」の単元につながります。

数学的思考法の基本である一対一対応、「羊と小石」「山の木の数え方」の逸話も興味深い物でした。

□気の熟語(空気、冷氣 換気等)を集めて、分類し、小泉周二さんの詩「空気と勇氣」につながる授業も意外性があつて眼から鱗でした。

荒井さんの豊富な経験と幅広い知識(長期記憶)と、長期記憶↓抽象化↓考える力という一貫した授業の組み立て方が見事に融合した実践報告でした。これからも新たな情報を収集し、荒井さんの冷蔵庫はさらに豊かな食材で満たされ、素晴らしいシェフになっていくでしょう。

「じんわり、ほっこり、学級づくり」

岸本 ひとみ

岸本先生の学級づくりは、気負うことなく自分にできることを、のんびり続けると言うことです。

学級開きのポイントと学級通信の見本を提示してくださいました。例えば、1年生なら初日から宿題としてお友達に挨拶をする。2年生なら叱るときの基準を示す等、中学年、高学年での指導上意識することを教えてくださいました。学級開きはイベント化せず、どんな子になってほしいかを語りと通信で伝えます。その語りで使えるアイテムとして「メビウスの輪」を紹介してくれました。

具体的な学力づくりのお話をたくさん聞くことができました。計算・漢字の実態調査を行うことの意義は大きいです。計算のどんなところでつまづいているのかがわかり、強化することができます。またそのつまづきを克服するには、家庭との連携が必要なのか、コーディネーターに相談するのが見極めることも大切です。

校内全体でのスキルタイムは、ジャンル

が日替わりで足並みをそろえることが多いですが、それでは効果は期待できません。

学級のキーパーソンとなる子どもが得意なジャンルから始めるそうです。その子の伸びが実感できるよう、下位層の子の逆転現象が体感できるよう意図的に仕組んでいくのが岸本流です。淡々と日々の学習活動の中で、子どもをキラキラさせていくのです。

読み上げ漢字と一〇〇マス計算を行いました。ペアで取り組む楽しさ、時間をかけずに答え合わせをする方法もわかりました。一〇〇マス計算の結果は、スプレッドシート(エクセルシート)を使って入力すると、すぐに個人の伸びや勝率がわかり便利だそうです。

派手さがなくて実践の積み上げですね。当たり前すぎる学級づくり。だれでもどこでもできるようで、相当な覚悟がいるような気がします。「死ね! くそババア!」と言っていたクラスも、半年間かけてほっこりクラスに変えていくってすごいと思いませんか。「私ってしつこいんですよ。」っておっしゃいましたが、ぶれない信念にもとづく実践の積み上げですね。

佐久間亜紀著『教員不足』―誰が子どもを支えるのか (岩波新書) の紹介

金井 敬之

相対評価は教師を墮落させる

評価という言葉がよく使われます。しかし、日常の教育現場ではそれは「評価をする」「行為をさすことが多く、「評価」そのものについての論議は乏しいように思えます。

○教員不足の原因

今、学校現場で深刻な問題になっている教員不足。その原因はどこにあるのか？慶應義塾大学の佐久間亜紀教授は、2000年代の小泉政権下で始まった行政改革と度重なる規制緩和による正規雇用教員の削減、非正規教員への依存と第一次安倍政権時の教員免許更新制の導入をはじめとする教育改革が大きな原因だと指摘する。

○小泉政権の行政改革

まず、2001年の義務標準法の改定である。それまでは児童・生徒40人に対して1人の正規雇用教員の配置が義務づけられていたが、それを複数の非正規雇用教員

で分割可能にした（定数崩し、定数砕きと呼ばれる）。

次に、2004年の義務教育費国庫負担制度への総額裁量制の導入である。教職員給与費の総額範囲内であれば教員の数・給与・待遇を自治体が決められるように規制を緩和した（給与に反映する教員評価システムにつながった）。

さらに、2006年の公立学校教員の給料の国庫負担が2分の1（国と地方は同等の責任をもつべきという理念からの半々である）から3分の1への削減をする。

これによって、多くの自治体が非正規教員を雇用することで教員の数を揃えることを優先した。こうして、正規教員の数と給料が減る反面、非正規教員が激増していった。「教員不足」という問題は、新自由主義的な政府による度重なる規制緩和によって作り出されたのである

教員を増やせという要求に、国は教員を

増やす手立てとして加配教員を配置するという政策をとった。しかし、単年度で人数の増減が生じる加配教員を確保できても、自治体はその教員を正規教員でまかなうことはリスクが大きい。しかも、加配教員は、国が特定の教育政策（習熟度別指導、いじめや不登校対策など）を遂行するために単年度で予算配分されるので、必ずしも現場のニーズに比べられるとは限らず、自治体は非正規教員で加配教員の数を満たさざるをえない状況になっている。

さらに、少子化による採用控え、学校現場の多忙化や子どもや保護者の対応などによる病休者、退職者の増加、採用試験の受験者の減少により、教員不足に拍車がかかったのである。

○安倍教育改革

行政改革と並行して教育改革もすすめられた。2000年に学校教育法施行規則が改訂され、職員会議が校長の補助機関に位置づけられ、校長権限が強まった。2007年には、学校教育法が改訂され、副校長や主幹（首席）教諭、指導教諭などの中間管理職が置かれ、学校はトップダウン型の組織になった。

2014年に教員評価制度に評価と給与が連動するようになり、上意下達で自由度が失われた「息苦しい」職場になっていった。さらに学力テストも行われ、現場はその「対策」に追われた。

2007年に教員免許法は改訂され、教員免許制度が始まった(22年に廃止)。2018年道徳の教科化、外国語学習、プログラミング、ICT教育と、学校現場は多忙になり、教師の負担が増え、精神疾患の教員が一層増えた。児童の指導、保護者の対応の困難さが増し、教師の大変さが広く認知されるようになったが、教師の魅力や人気、権威や尊敬も失われていく。

終戦直後から、教員志願者の安定的に供給する仕組み(教員養成大学と非養成系大学の両方での免許取得、地方公務員としての安定的雇用と待遇)をつくり、日本全国どこに生まれても子どもが教育を受ける機会を得られるよう、教育の地域格差を解消していく努力が続けられてきたが、2000年以降に国は自らその努力を放棄してしまったのである。

○教員不足大国アメリカの実態

アメリカは以前からずっと教員不足の国

だそう。特徴的なのは、教員不足の状況が地域によって大きく異なる点である。州の南部の不足が深刻であり、州の中でも富裕層が集まる地域とそうでない地域の差が激しい。経済的・文化的に困難を抱える家庭が多い地域では、指導に困難が生じるにもかかわらず、給与が低いため教員不足率が高くなっている。週4日制の学校が増えたのも教員不足が深刻化したためである。

教員採用条件に大学に入学すれば卒業資格がなくてもよい州や、軍人を教壇に立たせる州もある。フィリピン人など海外から教員を「輸入」する州もある。現場教師は「アメリカでは、教員が社会的にリスペクトされていないことが、教員不足の最大の原因だと思います」と語っている。

地域格差が深刻化、固定化した現在のアメリカでは、子どもが生まれた時点でどんな教育が受けられてどんな人生を歩むことになるのか、ほぼ決まってしまう。アメリカンドリームは過去の夢であると佐久間氏は言う。

パソコンのアプリで個別にドリル学習を行わせている学校では、子どもがアプリで学習している間は、教員免許をもつ教員の

代わりに、子どもがパソコンの前に座っているかどうかを監督するだけのアルバイトを配置して教員数を減らすことに「成功」しているという。それは経済的、文化的に困難な家庭が多い地域の学校に顕著であるそうである。アメリカの実態が数年後の日本になっているのではないかと危惧する。

○さいごに

佐久間氏が指摘するように、教員は小泉行財政改革と安倍教育改革の二重のターゲットにされ、人出も予算も給与も減らされたなか、ひたすら仕事を増やされ、さらに団塊の世代の大量退職や少子化の加速などの社会的変化が重なり教員不足が生じた。

教育の機会均等が崩れ、教育格差も広がった。しかし、公立学校は教育の機会を保障し誰もが安心して暮らせる社会を維持するためのセーフティーネットである。

公立学校は子育て世代を地域に根づかせる役割や地域の防災拠点の機能もある。

教員不足は、ただ教員数の減少ではない重要な意味(危険性)をもっていることが、この本を読むとよくわかる。

◇学力研最新情報 岸本ひとみ

●この1冊をぜひ

GWに宮口幸治さんの近著を読みました。

「逆境に克つ力」親ガチャを

乗り越える哲学」小学館新書

宮口幸治・神島裕子共著

日頃から「親ガチャ」って何なん？
家庭の教育環境で、一生が決まる
なんていう考え方はまちがっている！と、憤っていた私にとっては、
この本は、清涼剤のような1冊で
した。

まとめの部分からの引用です。

① 基礎学力と認知機能を伸ばす



認知機能とは、例えば学校では先生の説明をしつかり見て、聞いて（知覚）理解する力（言語言語理解）、集中して課題に取り組む力（注意）、大切なことを覚える力（記憶）、習ったことを基に新しい問題に取り組む力（推論・判断）など、学ぶときに必要になってくる力です。まさに認知機能は、学習の土台と言えるでしょう。認知機能が弱いと学習の土台が不十分なため、学力でつまずきが生じることが多いのです。

私のクラスの、困っている子ども
の顔が次々に浮かびました。そ
して、この本に
ある、認知機能
トレーニングを、
少しずつ取り入
れていこうと、
いろいろ考えさ
せられた一週間
でした。
学び続けるこ
とは大事ですね。

◇事務局だより 岡本 美穂

●春の先生のための学校

前回のご感想です。

・漢字学習を授業の初めに入れ
ていますが、読み上げ漢字も漢
字ミニテストも入れようとする
と、時間がかかりすぎるので、
悩んでいます。

子どもの実態をつかんで、考え
ていきたいと思いました。いい
材料をたくさん紹介いただいた
ので、子どもたちの成長に活か
せるように頑張りたいです。
ありがとうございました。

・教師が宿題への労力を掛けず
ぎないよう、でも、子どもが楽
しみながら力が付く手法をもっ
と自分なりに考え開発してみた
いと思いました。

・ありがとうございました。「宿
題多くありませんか？」という
保護者に対しての岸本先生の説
明が素敵ですね。保護者からの
理不尽な要求やクレームを恐れ、
小さくなってしまいがちなので、
屈しない信念を持たねば、と思
いました。

・今日も具体的で、明日から試
せることをたくさん教えていた

いただきました。資料もただで
ありがとうございました。

・「講座①感想」面白かったです。
脳が熱くなる感じがしました。

・「講座②感想」子どもと相談し
ながら、仕組みを作りたいと思
いました。

・「講座③感想」安定した授業の
ために教科書の活用は大事だと
思いました。

・「講座④感想」学校の仕組みに
合わせて、学級作り視点で目的
意識を持って取り組みたいと思
いました。

・「講座⑤感想」「だまされない大
人になるために」よい言葉を教
えていただきました。

・「講座⑥感想」手書きも少なく
なっていますが、義務教育で学
ぶ漢字ぐらいはしっかり習得さ
せたいです。

▼第3回

5月18日(日) 13:00～15:00

「か月たつての学級づくり

子供が楽しんで取り組む書く指導
学級会で自治へ
保護者対応 どうする？

自治に向かう！話す聞く指導とは
困っている子供対応 Q A講座

学力研カレンダー



《各地のサークル・部会 2025年 5月 例会、イベント》

どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

5/

- 16 (金) 伊丹学力研 18時半～ ※阪急武庫之荘駅近く 前田 090-9715-3830
17 (土) みなみ学力研 9時半～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp
23 (金) 春日井学力研 18時半～ レディヤン春日井(JR勝川駅) 山口 080-6904-1697
24 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp
30 (金) いろえんぴつ (加印) 18時半～ なんなん広場会議室 岸本 090-9117-6330
オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

下記サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等のご連絡下さい。

- 持ち方書き方研究会 ライン会議で行います。日時や参加のしかたはご連絡を 前田 090-9715-3830

《全国キャラバン等 今後の予定》

○ 春の先生のための学校【全3回】

3月23日(日) 13時～15時【済】 4月13日(日) 13時～15時【済】
5月18日(土) 13時～15時

オンライン

○ 1年生講座 第4回 5月24日(土) オンライン

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一	E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp
李 詩愛	E-mail iwamotoshie@gmail.com
堀井 克也	E-mail katsuya4k1h9@gmail.com
加藤 英介	E-mail hgrtd533@yahoo.co.jp